先進的な繊維学会

To a Dynamic Society of Fiber Science and Technology

木 村 良 晴

伝統ある繊維学会の会長を川口前会長から引き継ぎ、重い責任を負うことになりました。これからの2年間、当面の課題解決にあたりながら、先進的な繊維学会にしていける方策を模索したいと思います。積極的なご提案と学会参加をお願い致します。

当面の課題と対応策

繊維学会にとってこの2年間は試練の時期であると認識しています。この試練を乗り切ることが新執行部に課せられた任務であり、それには次のような当面の課題対策が求められます。

(1) 会員増強：会員から構成されている学会は「会員あつての学会」であり、「会員のための学会」であり続けなくてはなりません。この10年間、会員数は減少を続け、正会員数は1500人台にまで落ち込みました。この昨今の会員減少の傾向は他の学会でも指摘されており、繊維学会に限った事ではありませんが、一定規模の会員数を確保しないと学会活動を維持することが困難となります。「繊維科学」を主體的に教える大学は1、2を除いてほとんどありませんが、「繊維技術」をベースにした材料技術・加工技術は広範に使用されており、「繊維」にかかわる産業も多岐に亘っていることから、「繊維」は一つの重要な分野を形成しています。これら「繊維」にかかわる技術者、企業群に広くよびかけ、会員をできるだけ増やすことを第一の目標とします。

一方、学生会員は、最近になって徐々に増加してきていますが、まだ200人程度であります。学生会員は次世代の「繊維」を支える人材ですので、一人でも多くの学生に会員になっていただきたいと思います。それには年次大会や秋季研究発表会への発表と参加者を増やしていくことが最も効果的な方法となります。また、団塊の世代の退職に伴って高齢者の退会が増大しています。この世代は「繊維」を最もよく知る技術者であり、世代間の知識伝授と技術移転に重要な役割を担う人達であります。この方々には退会ではなく、繊維OBとして学会活動を続けていただきたいと思っています。それにはどのような制度と学会活動を用意すべきか提言をいただき、実行したいと思います。

(2) 新公益法人への移行：社団法人である繊維学会も新公益法人への移行を余儀なくされています。川口前会長の

もとで開催された前の総会で「一般社団法人」に移行することが承認されました。これには定款の見直し等、種々の法的手続きが求められますが、体制を整えて粛々と進めていきます。そして、平成23年度中にはその移行を終え、新しい「一般社団法人 繊維学会」として出発する計画です。同時に、より活性化された繊維学会となるように努めなければなりません。

(3) アジア対応(国際化)：昨年、上田市で開催された第10回アジア繊維会議(ATC-10)では、多くの海外参加者を集めて活発な研究発表が行われました。アジアから250名を超える参加者を得たことは、アジア各国が我国の繊維科学・技術・産業にいかにか大きな期待をもっているかを示すものであり、「日本の繊維」の底力を再認識させられました。したがって、アジアで活躍する繊維関連科学・技術者を繊維学会に取り込みながら国際化を進めることが、繊維学会の飛躍の原動力となることは疑いありません。その具体的な方法論について提言を求めながら、国際化をより一層進めたいと思っています。

(4) 提言の実行：繊維学会を含めて「繊維」への提言は過去にも数々出されてきましたし、これからのいただくこととなります。これらの提言を正面から受け止めて、できるものから迅速に実行するようにしたいと願っています。残念ながら、会長を含め学会役員は他の職務との兼任ですので学会の仕事に専念することはできませんが、ネットワークをうまく作動させながら互いにサポートしあって活動を盛り上げていきたいと思っています。会員のご協力を切望するゆえんでもあります。

繊維科学の発展と文化形成への貢献

学会のホームページの冒頭に書かせていただきましたが、当面の課題対策に加えて、繊維学会の中長期目標の設定と、それに基づく具体的な活動が必要となります。20世紀に飛躍的に発展した繊維の加工技術は、到達限界にあると言われていますが、この限界を打ち破るには、斬新なアイデアに加えて異分野との融合が求められます。特に、IT、NT、BT、EETという先進4分野をどのように「繊維」に取り込むか、そして新しい繊維の潮流をどのように産み出すか提言を求めます。価値形成を優先した「ものづくり」システムを実現することにより、技術-製品-商品開発のフローを革新し、繊維産業のダイナミズムを取り戻すことも重要となります。また、繊維は「文化の形成」に直接関与できる数少ない学術分野でもあります。学会がこのような活動の中核になるべきであると思います。学会なくして研究者の活動、自己実現も不可能であります。学会での活動を通じて互いに協力、競争しあい、成果を認め合って科学・技術の進歩、文化の発展に貢献をしていただきたいと思っています。そんな場を提供することが、先進的な繊維学会のあり方だと確信しています。

YOSHIHARU KIMURA

京都工芸繊維大学 繊維科学センター
センター長大学院 工芸科学研究科 バイオベス
マテリアル学部門 教授

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町

Tel: 075-724-7804 Fax: 075-712-3956

E-mail: ykimura@kit.ac.jp